

処方箋方例

No. _____

眼鏡処方箋

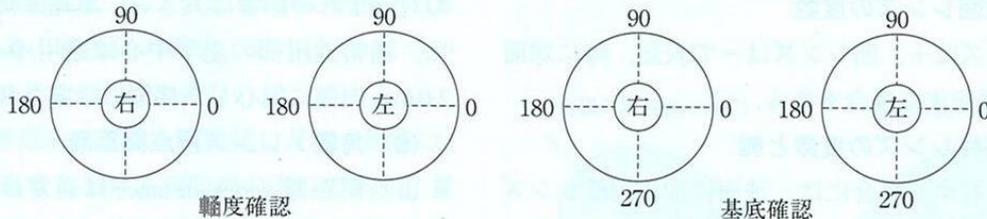
(氏名) _____ (年齢) _____ 歳 (男・女)

I. レンズ種類

素材	ガラス・プラスチック ()		
種類	単焦点・二重焦点・三重焦点・累進焦点 ()		
コート	()	カラー	()

II. レンズ値

	球面	円柱	軸度	加入度	プリズム	基底方向	瞳孔距離
右	D	D	°	D	△		mm
左	D	D	°	D	△		



III. 用法

装用目的	遠用 ・ 近用 ・ 遠近両用
装用方法	常時 ・ 必要時 ()

IV. 有効期間： 処方箋発行の日より 5・10・30 日

V. その他： 1. 頂間距離は 12mm とする。
2. 多焦点レンズの瞳孔間距離は遠用を基準とする。

VI. 特記： _____

年 月 日

医師住所 _____

医師名 _____ (印)

(注)・眼鏡が出来ましたら、検査のため一度ご自身でご持参ください。

図 11 ●眼鏡処方箋モデル

眼鏡処方シミュレーション

解答例

55歳の男性が、見えにくく、眼が疲れやすいという主訴で来院した。左右眼とも視力矯正(1, 0)、中間透光体、網膜にも異常所見なく、初めて眼鏡を作成することとなった。自覚的屈折検査データは、下記のごとくである。

- RV=0, 4①(0, 9×S+2, 5 D:C-1, 5 DA90°)④(0, 9×S+2, 0 D:C-1, 0 DA90°)
 ②(1, 0×S+2, 25D:C-1, 5 DA90°)⑤(0, 9×S+1, 75D:C-1, 5 DA90°)
 ③(1, 0×S+2, 0 D:C-1, 5 DA90°)⑥(0, 8×S+1, 75D:C-1, 0 DA90°)
 LV=0, 3⑦(0, 9×S+2, 25D:C-2, 0 DA80°)⑪(0, 9×S+1, 75D:C-1, 75DA80°)
 ⑧(1, 0×S+2, 0 D:C-2, 0 DA80°)⑫(0, 9×S+1, 75D:C-1, 5 DA80°)
 ⑨(0, 9×S+2, 0 D:C-2, 0 DA90°)⑬(0, 8×S+1, 5 D:C-1, 75DA80°)
 ⑩(0, 9×S+1, 75D:C-2, 0 DA80°)⑭(0, 7×S+1, 5 D:C-1, 5 DA80°)

問1 あなたならどうい眼鏡をすすめますか？ **チェック** どの距離が見たいか？生活上、何が困るのか？

- ②近用眼鏡のみ ②遠用眼鏡のみ ①近用眼鏡と常(遠)用眼鏡 ③遠近両用眼鏡 ③累進屈折力眼鏡
 ①が不可なら多分これで一番困っているはず ②が多分今まで装着していなかったため面倒がるだろう ③はめはずし面倒なら ③は初めてなので少し迷う

問2 この人の自覚的屈折検査値は？
 RV=②(1, 0×S+2, 25D:C-1, 5 DA90°)
 LV=⑧(1, 0×S+2, 0 D:C-2, 0 DA80°)

問3 あなたならどのレンズでまず装用練習をしてもらいますか？ R=④(0, 9×S+2, 0 D:C-1, 0 DA90°)
 L=⑫(0, 9×S+1, 75D:C-1, 5 DA80°)

問4 新聞を40cmで読みたいと希望している。その場合、④近用眼鏡度数決定方法の負荷レンズ度数の選択の(a)(b)(c)の方法でこの人の近用眼鏡度数を決めなさい。遠用は装用練習の度数でOKだった。ただし、この人の調節力は表の通りであるとする。

- (a) $1/0.4-1.5=1.0$ 加入度数+1.0D $\begin{cases} R=S+3, 0 D:C-1, 0 DA90^\circ \\ L=S+2.75 D:C-1, 5 DA80^\circ \end{cases}$
 (b) $1.0+1.5 \times (1/2 \sim 1/3) = 1.5 \sim 1.75$ 加入度数+1.5~1.75D $\begin{cases} R=S+3, 75 \sim 3, 5D:C-1, 0 DA90^\circ \\ L=S+3, 5 \sim 3, 25D:C-1, 5 DA80^\circ \end{cases}$
 (c) $1.0+0.5=1.5$ 加入度数+1.5 $\begin{cases} R=S+3, 5:C-1, 0 DA90^\circ \\ L=S+3.25D:C-1, 5 DA80^\circ \end{cases}$

問5 次に近見矯正をする場合、まずどのぐらいのレンズから矯正を始めますか？

近方R=S+3, 25:C-1, 5 DA90° 1.0add 55歳の人の調節力1.5D、正視の人ga30cmを見るのに3D必要→1.5D不足
 近方L=S+3, 0D:C-2, 0 DA80° 1.0add 自覚的屈折値から約1.0加入してから徐々に増加してゆく

問6 まずあなたなら、どうい度数で近用眼鏡の装用練習をしてもらいますか？

(参考) 近見矯正値は下記のごとくである。(近見矯正は30cm)

NRV=0, 1 (1, 0×S+4, 0D:C-1, 5 DA90°)

NLV=0, 1 (1, 0×S+3, 75D:C-2, 0 DA80°)

近方R=S+3, 0D:C-1, 0 DA90° 40cmが希望ならS-0.5~-0.75Dくらいずつ徐々に減じて自覚的に良いレンズを!

近方L=S+2, 75D:C-1, 5 DA80°

問7 上記の度数で、希望距離である40cmの距離で新聞を読んでもらった。しかし新聞を50cmぐらいで見ただけがよく見えると言う。加入度数は増やす方が良いか、減らす方が良いか？増やす

問8 度数を調整し、再度40cmの距離で新聞を読んでもらった。しかしまた、どうも見えにくいと訴える。よく聞いてみると、眼から試験枠を離すとよく見えるという。装用練習した近用眼鏡の度数は、強いのか、弱いのか？不足か、過剰か？弱い不足

問9 眼精疲労があるので、眼位を測定すると下記のごとくであった。

A. P. C. T(SC)

1/3m XP 6△Base in

5m XP 4△Base in

4△位、光学中心を偏心させることによって、筋性の眼精疲労を軽減させる為には、常用眼鏡の場合PDを何mmにすればよいか？(この人のPD=65mm、問3の度数の等価球面(本当は180°方向の度数となる)で計算して下さい。頂間距離は0として考え右眼に3△、左眼に1△に振り分けてください。ただし臨床では不可能なので解き方だけ。

④右眼→3△ $h \times 1.5/10 = 3$ $h = 20\text{mm}$ 右眼 20mm 光学中心を内側に

⑫左眼→1△ $h \times 1.0/10 = 1$ $h = 10\text{mm}$ 左眼 10mm 光学中心を内側に

問10 右眼に3△、左眼に1△プリズムを入れると非常に楽になるとのことで処方する事となりました。度数は近用装用練習より、+0, 5D加入したら、見やすかった。この人の処方箋を別紙に記入しなさい。

患者は上野パンダ 男 55歳さんです。

処方箋方例

No. _____

眼鏡処方箋

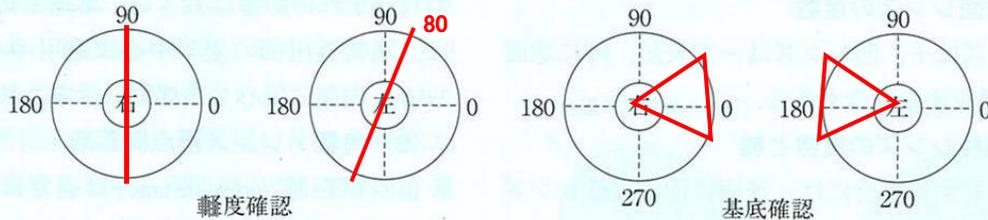
(氏名) 上野 パンダ (年齢) 55 歳 (男・女)

I. レンズ種類

素材	ガラス・プラスチック ()		
種類	単焦点 <u>二重焦点</u> ・三重焦点・累進焦点 ()		
コート	()	カラー	()

II. レンズ値

	球面	円柱	軸度	加入度	プリズム	基底方向	瞳孔距離
右	+2.0 D	-1.0 D	90 °	+1.5 D	3 △	0	65 mm
左	+1.75 D	-1.5 D	80 °	+1.5 D	1 △	180	



III. 用法

装用目的	遠用 ・ 近用 ・ <u>遠近両用</u>
装用方法	<u>常時</u> ・ 必要時 ()

IV. 有効期間： 処方箋発行の日より 5・10・30 日

V. その他： 1. 頂間距離は 12mm とする。
2. 多焦点レンズの瞳孔間距離は遠用を基準とする。

VI. 特記： _____

年 月 日

医師住所 東京都千代田区 視能訓練付属病院

医師名 視能 花子

視能

(注) ・眼鏡が出来ましたら、検査のため一度ご自身でご持参ください。

図 11 ●眼鏡処方箋モデル